

2005年総選挙報道の分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2013-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井田, 正道 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/15119

2005 年総選挙報道の分析

井 田 正 道

本研究では朝日新聞・読売新聞・毎日新聞の3大全国紙について2005年総選挙報道に関する内容分析を行い、その特色と傾向について論じる。内容分析の対象期間は、小泉首相が郵政解散を行った直後から投票日当日までの約1ヶ月である。

2007年度においては選挙公示後の3大紙の内容分析(1面～5面)を行った。分析のフレームは選挙報道をゲーム報道(game)と実質報道(substance)とに分類したパターンソン(Thomas E. Patterson)の分析フレームを修正して作成した。パターンソンは、ゲーム報道として、勝敗に関する報道、選挙戦略や資金に関する報道、そして選挙キャンペーンにおける出現(apperance)やお祭り騒ぎ(hoopla)に関する報道が含まれ、実質報道としては政策・争点報道、候補者の経歴や実績に関する報道、そしてメディアの支持(endorsement)に関する報道が含まれる。

筆者は、ゲーム報道をあくまで選挙結果に関連した競馬的側面に関する報道と定義し、実質報道は当該選挙で有権者の判断基準となるべき事項に関する報道と定義する。そしてそれぞれの内容は以下のとおりとした。

ゲーム報道：情勢分析・勝敗、選挙区レポート、投票率・投票参加、出現、選挙戦略・運動、イベント(集会など)

実質報道：政策・争点(含マニフェスト)、党首・党幹部の資質・特性、候補者の特性・意見

その他：候補者一覧・候補者数、選挙日程、その他

コーディングに当たっては、上記の合計13のカテゴリーから各記事がもっとも該当するものを選択するというシングル・コーディング方式を採用した。なお、各記事はコラム・センチを計測し、記事数のみならずコラム・センチによっても内容別の比率を検討できるようにした。

内容分析のコーディング作業は、各年各新聞それぞれ5～6名の訓練を受けた大学生によって行った。コーディング作業は、筆者同席のもとで行い、コーダーが少しでも判断に迷った場合は、

筆者の判断によった。

次に、コーディング用紙に記録されたデータをコンピュータを使用してデータ化し、基礎集計を行った。